

報 告

第66回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成27年度秋季第66回日本歯科理工学会学術講演会が、日本大学歯学部歯科理工学講座 米山隆之教授を大会長として、2015年10月3日、4日に東京都江戸川区のタワーホール船堀にて開催された。

本大会における一般講演の演題数は、口頭発表26題、ポスター発表75題の計101題であった。また、Dental Materials Advisor/Senior Dental Materials Advisor 特別セミナーを兼ねた特別講演と、企業展示が2日間にわたり行われた。今大会から日本歯科理工学会「表彰事業」の一つの大きな変化があった。それは、学術講演会での口頭発表に研究奨励賞が新設されたことである。

応募資格は下記の通りである。

1. 本会会員歴2年以上の会員。
2. 本会学術講演会で口頭発表をする筆頭発表者。
3. 大学院学生または若手研究者（40歳未満であること。常勤講師以上の身分の者は除く）。
4. 過去に本賞同部門の受賞歴がない者。
5. 正会員1名（Dental Materials Senior Adviser有資格者）の推薦があり、応募した者。なお、推薦者は同時に同一部門に複数の候補者を推薦できない。

会告によると、本賞は「大学院学生部門」および「若手研究者部門」より構成され、大学院学生および若手研究者の研究活動を奨励することを目的として、過去に実施していた研究奨励賞と発表優秀賞を見直して新設されたもので、口頭発表に限られるところが大きな変化であるとのことである。

さて、学会の第1日目は、大会長の挨拶に続いて口頭発表から開始された。地方会役員会開催後の午後には特別講演に松村英雄教授（日本大学歯学部 歯科補綴学第Ⅲ講座）をお迎えし、「機能性モノマーと重合開始剤の

開発による接着補綴歯科臨床の進歩」と題してご講演頂いた。15時から、上述した第1回目の研究奨励賞応募課題として大学院生（5件）、教員から7題（2件）の口頭発表が行われた。発表者の研究レベルも高く、プレゼン技法もすばらしかった。限られた時間の中ではあったが、活発な質疑応答が繰り広げられ、今後が楽しみになるセッションであった。次回の学術講演会でも、該当大学院生、教員の皆様には多数ご申請頂きますようお願い申し上げます。18時から2階イベントホールにて懇親会が行われた。

第2日目も口頭発表、ポスター発表ともに多くの議論が交わされ、充実した学会になった。午後からは、上月礼亨先生（株）松風 研究開発部）を講師に迎え、「人工歯材料の変遷—製品開発コンセプトとそれを実現するための材料設計—」がDental Materials Adviser/Senior Adviser ランチョンセミナーとして、今里 聡教授（大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座）を座長に開催された。続いて、Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーとして「高齢者歯科医療の実践において歯科理工学に望むこと」が、津賀一弘教授（広島大学大学院医歯薬保健学研究院 先端歯科補綴学）、石田 瞭教授（東京歯科大学口腔健康科学講座 摂食嚥下・リハビリテーション研究室）、奥 淳一先生（鹿児島県霧島市開業、公益社団法人始良地区歯科医師会会長）、深澤太郎先生（株）吉田製作所）ら4人を講師に迎え、早川 徹教授（鶴見大学歯学部 歯科理工学講座）を座長として行われた。一般開業医、歯科材料開発、大学とそれぞれのお立場からお話し頂いた。

日本大学学会スタッフ、口腔保健協会事務局の皆様のご尽力により、2日間の講演会も盛会に終わりました。会員の皆様！次回は福岡です。福岡歯科大学スタッフ一同、皆様のお越しをお待ち申し上げます。

丸田道人

（福岡歯科大学 歯科医療工学講座 生体工学分野）

